

学校広報誌

相模

s a g a m i

sagami

Vol. 74



東海大学付属相模高等学校中等部
東海大学付属相模高等学校

住所：神奈川県相模原市相南3-33-1

電話：042-742-1251

2010年3月10日号

編集・発行／研究部

卒業を祝して～お祝いの言葉～

高 校：第45回卒業式 3月10日（水）

中 等 部：第28回卒業式 3月11日（木）

ご卒業おめでとうございます

中等部と高等学校の卒業生の皆さん、保護者の皆様に心からお祝いを申し上げます。

東海大学が推進する中学―高校―大学の10ヶ年一貫教育を考える時、中等部卒業のほとんどの皆さんとは相模高校で、高校卒業皆さんの多くとは東海大学においてお会いする機会もありますが、長いスパンのなかで、それぞれに中学校あるいは高等学校の課程を終えて、いかえれば、自らの積極的な人生を歩むための大事な節目を超えて、次の舞台へ進むこととなります。卒業生の皆さんには、ただだらと時の流れに身を任せるのではなく、それぞれにこれまでの学校生活に思いを馳せて、次のステージへの意欲をかき立て、それぞれの舞台の中核として活躍して頂きたいと思ひます。特に学園の外へと活躍の場をうつつ皆さんは、もう一度今までに培った学園の精神に思いをいたし、それぞれの新しい場で実践して頂きたいと思ひます。

さてこの3年間、特に今年度を振り返ってみると、長引き慢性化した世界的経済不況の中で、国内では現状打破を求める多くの声の前に期待を担って新しい勢力による新しい政権が誕生いたしました。まだ緒に就いたばかりですから先行きはわかりませんが、こうした世相に背を向けてみても何の解決にもなりません。

発想を変えてみれば、こういう時だからこそ、激動の時代、逆に新しい世の中を切り開くチャンスがあるのかも知れません。その激流の中で、激流に翻弄されることなく、毅然として自らの進路を確保するためには、強い意志と自己主張できる自分自身がなければなりません。どんな時代になろうとも、求められる人材はあるものです。まさに相模の3年間で培われた東海大学の精神の発揚の場です。皆さんが社会に出るまでにはまだまだ変化があることと思ひますが、いずれの社会でも通用する「世界でたった一人の光り輝く自分」を作ってください。卒業される皆さん一人ひとりの今後の努力と将来の栄光を期待してお祝いの言葉といたします。



校長 大金 眞人

卒業おめでとうございます。最後に物事のとらえ方を考えてみましょう。これから紹介するアメリカの有名な話を読んで、あなたはどうかとらえるでしょうか。「ある靴のメーカーで、やる気まんまんの新人社員二人が上司とともにアフリカへ行き、実地調査をしました。翌日さっそく、一人の社員が上司に報告に行きました。『支店長、この国では靴を売ることができません。』と話し始めました。上司は『どうしてだ』と聞き返しました。すると社員は『誰も靴を履いていないのです。』と答えました。しばらくするともう一人の社員が報告に来ました。『支店長、この国では靴をたくさん売ることができます。』と話し始めました。上司は『どうしてだ』と聞き返すと、『誰も靴を履いていないのです。』と答えた。」あなたはどっちのとらえ方を考えたでしょうか。この先、多くの壁に当たる人もいるかもしれないし、壁に当たらずに過ごしていく人もいます。私は、靴を履いていない国だからこそ売れるチャンスがあるという風に皆さんがとらえてくれたらいいなと思ひています。

高校3年学年主任 今井隆友



3年生のみなさん、卒業おめでとうございます。思い起こせば、ブカブカの制服を着た君たちが桜の花びらが舞うこの校舎にやってきたのは3年前の4月のことでした。そこから中等部生としての生活が始まったのですが、早いものでそんな君たちがいよいよ中等部を卒業することになりました。ここへ来るまで色々なことがあったと思ひます。嬉しいこと、悔しいこと、悲しいこと、楽しいこと、そうした経験の一つ一つが、君たちの心の力となり、これから始まる生活の中で君たちを支えてくれることになるでしょう。しかし、卒業によってすべてが終わるということではありません。新しい生活が始まるのです。何が待っているかはわかりませんが、ここから先もきっと君たちは色々な経験をするはずで、それは楽しいことばかりではなく、苦しいこともあるでしょう。でも苦しいことに立ち向かい乗り越えたとき、その経験が自信となり、またいい思い出になるはずで、義務教育を終える今、自分の将来に不安を感じている人も多いでしょう。しかし、君たちは大丈夫です。何しろ、ここまで頑張ってきたのですから。何があっても、これから先も頑張っていけると思ひます。自分の可能性を信じて前進あるのみです。君たちの未来に幸多からんことを祈ります。

中等部3年学年主任 榎本智洋



総長賞に輝く！！ 高校 北村 美菜子さん／中等部 手老 あずみさん

総長賞は3年間の学業・生活態度・部活動すべてに秀でた人に贈られる賞です。

高校生活の最後にこのような賞をいただくことができ、とても光栄です。この3年間で、SHIPに参加するなど、たくさんの貴重な経験をすることができました。大学に進学したあとも、相模高校で学んだことを忘れずに、向上心を持ち続け、たまには息抜きをしつつ、勉強に励みたいと思います。3年間私を支えてくれた両親、先生方、友達に感謝しています。



3年7組 北村美菜子

今回総長賞というとても名誉ある賞を頂き、とても嬉しく思っています。1年生の時、卒業式で先輩がこの賞を受賞しているのを見て、私も3年生になったら受賞してみたいとずっと思っていました。その頃から総長賞受賞というのは私にとって1つの目標でした。この3年間、部活と勉強の両立が大変で、くじけそうになった時もありましたが、とても良い経験ができました。自分自身大きく成長できたと思います。



3年A組 手老あずみ

NZ 中期留学 <ニュージーランド中期留学 2010年1月6日(水)～2月27日(土)>

この冬、私は自分にとって掛替えのない経験をすることが出来ました。それがNZ中期留学です。この留学では英語はもちろんのことそれ以外にもホームステイや現地の学生達との交流を通じて、多くのことを学び成長することが出来ました。特にホームステイ、これは素晴らしいものだと思います。顔も知らず、文化も違う私を家族として受け入れ、自分達と同じ生活をさせてくれます。もちろん始めはなかなか馴染めず、苦労することもありました。しかし、そういう時にこそ一緒に来ている友達やホストファミリーの優しさ、温かさによって乗り越えて前の自分よりも一段と精神的に成長することが出来ます。また、この留学をやり遂げた時、この経験は私の大切な宝となり、大きな自信にもなりました。この経験をさせてくれた全ての人達にお礼を言いたいです。ありがとうございました。



3年1組 秋元海

私は留学に行く前、不安だらけでした。しかし、多くの人に助けられ、NZの人は本当に温かい人達ばかりだと感じました。この留学を通して、英語だけではなく、たくさんの事を学びました。あいさつの大切さや感謝の気持ちをしっかりと相手に伝えることの大切さなどです。また、ホストファーザーやブラザーが積極的に家事をしていることに驚きました。こういう日本とは違う文化を体験できて良かったです。また、いろいろな国の友達ができ、自分の世界が広がりました。この2ヶ月間、本当に充実した濃い時間を過ごすことが出来ました。一生忘れない素晴らしい経験ができるのでぜひ参加してほしいです。



3年5組 室田和音

日本を発つ時は嬉しさと不安が入り混じった複雑な気持ちでした。オークランド空港に着いて見上げた空はとても青くて、私を励ましてくれました。ホストファミリーはとても温かく、まるで本当の家族のように接してくれて「娘」と言われた時は本当に嬉しかった。学校ではNZや他国の人と友達になれて精一杯の英語で会話しました。NZの自然や文化に触れる事のできた2ヶ月間は一生の宝物となり、支えてくれた人達に本当に感謝しています。



3年8組 中島里花